

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2024 年度事業計画書

1. 映像アーカイブに関する調査研究～

● 「JAM2024」の企画と実施

昨年度に引き続き、今年度も定時総会の議決結果の報告に続き、イベント「JAM2024」を開催する。今年度は慶応義塾大学アートセンターとの共催により、慶応三田キャンパスを会場とする。また、今年度より、会員限定ではなく、非会員も対象とした公開イベントとし、非会員の参加は有料とする一方、本イベントをきっかけに入会への勧誘を行う。

イベントは、映像アーカイブのベーシックスを学ぶレクチャー、フィルムから AI まで映像アーカイブの現在と未来を考えるセッション、ならびにライトニングトークによって構成し、今後会員による分科会や一般公開による研究会へと発展するための萌芽と位置づける。また、懇親会を含め、映像アーキビストによる交流の場とする。

● 公式ホームページの充実とメッセージプラットフォームを用いた交流の試行

(1) オーラルヒストリー⇒本年度も当会もしくは会員が関わるイベント等の採録・公開を行う。また、映像アーカイブに携わる人々のオーラルヒストリーについては対象者の検討を行ない、順次インタビューに着手する。

(2) 「ヒアリングによる日本タイミング史」のプロジェクトの協力、協会ホームページへの掲載⇒会員の郷田真理子さんによる『「現像所技術者に聞く 一日本タイミング技術史をまとめる試みー』に、引き続き協力、ホームページへの掲載を行う。

● アーカイブ・ツーリズムの企画と実施

映像アーカイブ活動の現場や映像アーカイブと重要な関わりを持つ場所を視察し、活動に携わる映像アーキビストや関係者との交流を図るために、昨年度に引き続き、アーカイブ・ツーリズムを企画・実施する。

● 映像アーカイブの手法や事例の調査研究と情報共有

国内外における、映画だけではなく映像全般のアーカイブの技術と事例を広く調査し、情報共有する。

2. 映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認識ならびに関心の向上促進

● 基金設置を含めたファンドレイジングの方法の調査

当法人による基金設置を含め、映像アーカイブ活動の立ち上げと継続を支えるためのファンディングとして、公的支援やメセナ等の民間支援の可能性を探るために、引き続き情報収集を行う。

3. 映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力

● 2023 度は IMAGICA EMS の協力を得て、ヴィンテージプリントの重要性を考える試写付き

勉強会を行ったが、2024 年度も引き続き、映画フィルムを後世に伝えるための方策を検討するラボやフィルム技術者を講師に招いての試写付き勉強会も継続する。会員向けのクローズドの勉強会だけでなく、一般公開イベントでも、リリースプリントの重要性への認知を広めるための一般公開イベントを企画する。

4. 映像アーカイブ、及び映像アーキビストの認知向上を目指す広報活動

- ホームページ、X(旧 Twitter)を活用し、映像アーカイブの重要性、映像アーキビストの社会的認知を図る。非会員に向けたイベント開催も模索。

5. 2024 年度定時総会の開催

- 2024 年度定時総会を開催する。なお、今年度もコロナ禍後の影響と実務時間短縮のため、従前の通り、オンラインによる総会開催とする。

以上